



GREEN BREEZE

軽井沢観光協会広報誌



「雲場池と星景」田中 義一さん

おかげさまで軽井沢観光協会創立 70 周年

軽井沢観光は地域総合力により支えられてきました
(写真は昭和58年の「第16回氷祭り」より)



Contents

- 1 対談 2p
“ 移住者が語る、選ばれるリゾートとは ”
- 2 観光協会活動報告・お知らせ 4p
 - 三義郷レールバイク記念式典
 - カナダプロモーション事業趣旨と成果
 - ドッグツーリズム先進地域 那須高原視察
 - 2019 軽井沢写真コンテスト作品募集
 - 第5回 軽井沢 WEB 検定に向けて
- 3 Ruiza ちゃん取材日記 6p
 - 軽井沢ハーフマラソン 2019
 - 第10回 グランフォンド軽井沢
 - 第18回 ジーロ・デ・軽井沢
 - 観光協会創立 70 周年記念講演のお知らせ
 - G20 関係閣僚会合開催報告
 - 第32回 国際アカデミー in 軽井沢開催報告
 - 軽井沢ショー祭 2019
- 4 軽井沢 Topics 8p
 - 観光協会職員の紹介
 - ワークेशन・スタートアップ・フォーラム



Special Interview

移住者が語る、選ばれるリゾートとは!!

【対談】



2016年に開催されたG7(交通大臣会合)、今年6月のG20(持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合)の開催実績により、軽井沢は内外から注目される国際リゾート会議都市として一歩進化した感があります。

このようなイメージが世界に発信され、根底にある当町の安定したブランド力とが重なり、現在も上質なホテルの開業や計画、別荘や移住者などの増加があります。個々のライフスタイルに合う環境を求め、最適なワークや生活が満たされる場所への移動はさらに進むと考えられ、地域がより厳

格に評価される時代に入りました。当町は旅行者や別荘所有者、関係人口となる地域利用者に恒久的に選択される必要があり、さらに良質な国際リゾートとなることが求められます。

この度、世界的な視野を持ち様々な外資系スポーツ関係会社の役員や代表を歴任し、現在、新幹線通勤で軽井沢⇄東京の二拠点ライフをしているスケッチャーズ・ジャパン社長のDavid Toda氏に、“軽井沢の価値”“軽井沢の市場性について”お聞きしました。

David Toda氏(スケッチャーズ・ジャパン社長)左(以下 トダ)
土屋芳春(一般社団法人軽井沢観光協会長)右(以下 土屋)

【軽井沢との関係】

(土屋) まずは軽井沢との関りについてお聞きします。

(トダ) 祖父の代でUSAに渡り父はUSA生まれです。祖父は一家で1938年に日本に戻りUSAの木材を日本に輸入する会社を営み、事業は栄えていました。しかし、不幸にして世界大戦がはじまり家族とともに軽井沢に疎開をしていたことから軽井沢との関りが生まれます。父の話によると、疎開時は食料には困窮したようですが敵対国同士であれコミュニティーが生まれ、自然豊かな中で平和に過ごしていたようです。また、移動の制限はありましたがスキーもしていたようで、父と叔母は国体にも出場しています。そのように子どものころから軽井沢の話をお聞きされていたことから親近感は培われてきました。

(土屋) ご自身の軽井沢に対する思いはいかがですか。

(トダ) 私は日本生まれですが国籍はUSAです。軽井沢は自然や生態系が豊かで、商業エリアを抜くと家々は森に囲まれています。この美しい自然と景観はかけがえのない財産でそこが一番の魅力です。スキーに夢中で志賀高原等を利用しましたが軽井沢を経由する機会も多く、魅了される気持ちは高まってきました。新幹線開通後は軽井沢日帰りも多かったです。

【軽井沢を選択した理由】

(土屋) 企業経営部門に長いキャリアをお持ちですが、自身の生活スタイルの変革と、軽井沢を選んだ経緯は。

(トダ) 現在も多忙ですが、50歳を過ぎた頃からゆとりを持った生活を望むようになり、良い環境を求め始めました。移住という手段を考えたところで、先ず夫婦で評価表を作成しポイントの高い順から選定に入りました。最終的にはハワイと軽井沢双方が残りましたが、軽井沢を選択した理由は(1)四季を感じられ安心感のある日本であること(2)首都圏からの距離(3)社会インフラの整備(4)質の高い外食産業や宿泊・芸術文化施設(5)自然豊かで四季折々のアクティビティー、この人口規模と面積に凝縮されていることが決定打となりました。さらに、リタイア後の楽しみは旅行ですので内外へのアクセスの利便性も考え、自宅から1時間程度で温泉や食文化も楽しめるハブ拠点であることも大きな要素ですね。

(土屋) 国内でも那須や箱根等の選択もあったかと思いますが。

(トダ) 自然と都市機能の融合もさることながら最終的には土地を含めた地域の普遍的な価値で、そのような意味においても先人が築いてきた歴史的な資産価値維持やステータスに感謝します。

(土屋) 都市には利便性や人脈形成、ビジネス、生活環境が整い、都市でなければ得られない環境もあります。

(トダ) 東京では松濤で暮らしていました。政治家、企業経営者、官僚等が多く住む落ち着いた街でしたが、半面隣接して不夜城のような刺激に満ちた渋谷があり、そのような住環境にいたからこそ軽井沢の環境に感動を受けています。地元の方が当たり前と感じている空間や時間は、私たちにとってかけがえのないもので、観光協会が提唱している“ウェルネス”は、正に軽井沢駅に降りたとたん感じますね。

【リゾートスタイル】

(土屋) 世界的なリゾート創出は私たちの願いでもあります。参考にすべきリゾートは。

(トダ) 私はスキーが好きで国際やカレッジ等の大会も開かれ軽井沢の姉妹都市でもあるウイスラーをよく知っています。さらにアスペンはアメリカのほぼ中央で富裕層がハブ的に利用するため飛行場には自家用ジェットが多く駐機しています。もちろんコンベンション都市であり各種研究機関や別荘の存在も大きいのですが、やはりスキーリゾートであることが国際的認知度を高めています。欧州各地のスキーリゾートにもよく行きましたが、リゾートでの過ごし方が豊かですね。

(土屋) 以前当紙面で“健康”をテーマに対談をした折に、スキーは標高差を短時間で移動した際の気圧効果(転地効果)が健康に寄与し爽快感や充実感を得られることから、欧米では富裕層にマッチした高級的なスポーツと認知されている、と会話が弾みました。もちろん日本一営業期間が長く、人工スキー場としては国内最大級の規模を誇るプリンススキー場の人気は抜群ですが、軽井沢をハブにすると志賀や白馬・アルプスなどは滞在時間も十分確保しながら日帰りができるエリアです。

(トダ) そのような立地も軽井沢の魅力です。スキーに限らず、芸術・文化、アクティビティー、情報、ビジネス等についても軽井沢がハブになり得ますし、間もなく敦賀(福井)まで北陸新幹線も延伸し、巨大な市場の人口流動が始まる予感もあります。

【欧米の市場】

(土屋) その他、軽井沢で外国人の感性にヒットする提案はありますか。

(トダ) 軽井沢の別荘開発は130年余りの歴史がありますが、その前の街道の歴史を紐解き、神や和の文化について訴求すると魅力が倍増するかと思います。欧米人はただの物見遊山観光ではなく、自身のスタイルに益があり未知の地域文化に触れること、さらに、参加し記念に残るものを得たいとの欲求があります。ロケーションとオペレーションの問題もありますが、地域文化を生かすイベントはどうでしょう。

(土屋) 軽井沢には、季節変動の平準化、長期滞在化推進、人手不足解消、渋滞対策、サービス業のクオリティーコントロール・消費単価の向上など長期的な観光課題があります。

(トダ) 世界級リゾートを目指すには、その長期的課題をいかに短期的に解決するかが問題です。欧米のスキー

リゾートもグリーンシーズン稼働のため様々なアクティビティーが広大な規模で整備されていることから、軽井沢も地域内で完結するのではなく広域連携が欠かせません。また、滞在化の推進とともに顧客満足度が鍵になることは確かですね。

【ウェルネスの訴求】

(土屋) 今回のG20では環境とエネルギーがテーマとなりました。私どもは新たな観光(リゾート)戦略について、豊かな自然環境を背景とする標高1000mのウェルネス・リゾートを標榜しています。

(トダ) 今回のG20のテーマは軽井沢にとってタイムリーでした※SDGsが話題になっていますが地球規模の環境の持続可能性は重要な課題です。軽井沢は今回のレガシーとして、二次交通の充実による渋滞緩和、窒素など新エネルギーの導入、テクノロジーの利用による効率化等で、世界に先駆けた地域になることを提案したいですね。

【世界的なリゾートへの課題、環境整備】

(土屋) 世界的リゾートへ進化するためには、余暇の質向上は欠かせません。ワークスタイル、教育、医療、福祉、スポーツ、芸術・文化、滞在・宿泊の各施設の充実は必須となりますが、軽井沢には先述の長期的な課題に加えてWi-Fi整備・キャッシュレス推進、軽井沢の価値の維持と次世代ブランド創造等、短・中期の課題もあり、その解決のため一体的な戦略構想団体の設立も計画中です。併せて、観光が多様性を持つ中、テクノロジーにより地域や企業を強化することの研究も進めたいと考えています。



▲世界級リゾートダボスをめざして

David Toda氏

1957年日本生まれ、東京育ちの日系アメリカ三世。高校までインターナショナルスクール(東京)、ワシントン大学経済学部卒。卒業後日本で外資系広告代理店勤務。その後、ビザ・インターナショナル(北アジア宣伝部長)、ナイキジャパン(宣伝部長)、アデダスジャパン(CMO)、ロシニョール ジャパン代表取締役社長などを歴任。現在スケッチャーズジャパン社長。4年前軽井沢へ移住、東京へ新幹線通勤。戦時中、父が小学生の時家族で軽井沢へ疎開していたことから、トダ家にとって軽井沢は第2の故郷でもある。趣味はスポーツ、音楽、ガーデニング、料理、フライフィッシングなど。



※SDGs(持続可能な開発目標)
2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標

観光協会活動報告・お知らせ

三義郷レールバイク記念式典



文化、教育、観光で軽井沢観光協会と連携を結ぶ台湾苗栗縣三義郷(町)は、町長や観光協会会長、協会役員も訪れたことのある16000人の町です。町並みは古い歴史に満ちた佇まいを要しており、年間300万人の観光客が訪れています。廃線となった旧山線(現地名)に昨年8月よりレールバイクを走らせる事により、観光客数は上昇しつつあります。

6月27日に開催されたレールバイク正式運営記念式典には町・観光協会・しなの鉄道等々が招待され、しなの鉄道と観光協会顧問の私が参加しました。式典の内容については、当日のテレビで大きく取りあげられ、台湾最大WEBメディアや台湾4大新聞にも大々的に取り上げられたイベントでした。レールバイクは国家プロジェクトで行

われているようなので、報道の過熱ぶりは頷けるものがあります。また、観光の在り方が静から動へと移行しつつある三義郷は、観光客が300万人から400万人に変貌を遂げるような町になっていくと思えました。

軽井沢町を考えたとき、白糸の滝・雲場池等素晴らしい景色はあるがそれは静であり動では無い。横川、軽井沢間にある廃線の鉄路を利用することにより動が生まれると考える、そんな事に思いを巡らせる式典でした。

観光協会顧問 / 荻原 宗夫

カナダプロモーション事業趣旨と成果

軽井沢観光協会は軽井沢町からカナダバンクーバーとウイスラーでのプロモーション開催の委託を受注し、6月29日バンクーバーで30日ウイスラーでプロモーションを行いました。

政府が打ち出している訪日外国人観光客の拡大は2020年に4000万人、2030年には6000万人とする目標が定まっているなかで、軽井沢のインバウンドプロモーションは平成11年当時各企業により、台湾・香港を中心に始まり、平成20年からは観光協会がイニシアチブを取り、東南アジアを中心に観光プロモーションを行ってきました。その結果、軽井沢インバウンドの現状は、約6割強が台湾・香港からの観光客です。

しかしながら、今後の日本におけるインバウンド需要は欧米をターゲットに進めていくべきであり、長野県内、軽井沢においても例外ではありません。欧米のインバウンドを吸収するには、自然を求める欧米人のアクティビティ環境の構築や、それを提供する我々プレゼンターがその知識を有することが必要です。以上のことからその知識と状況を吸収しながら、欧米でのプロモーションは今後必要であると捉えてきました。軽井沢町が今年度ウイスラー市と姉妹都市提携20周年を迎えたなか、このタイミングでの開催は前段で述べた「欧米のインバウンドを吸収する」絶好の先進地での開催であったと思います。

今回、長野県の主要都市(長野・上田・松本)のコンベンションビューローの協力を得て、城・お寺・忍者を長野県の文化歴史としてアピールできたことは、今後、県内連携が必要とされるインバウンド誘客に強力なアライアンスが構築できたと感じております。そして、軽井沢町長・議長が記念式典に招待されているタイミングで行えたのは、町のトップセールスとなり、ひとつの実績としてカウントされました。

誘客企画委員会 / 荻原 代志智



ドッグツーリズム先進地域 那須高原視察研修報告



去る6月6日ドッグツーリズムの先進地域である那須高原に19名で視察に行ってきました。那須高原は別荘地・避暑地・観光地そして首都圏からのアクセスの良さ、更には皇室との関係など軽井沢と非常に環境が似ており、犬連れの来訪者も多い地域です。

那須にも「ワンコネット那須協議会」という10年前に有志で立ち上げた団体があり、エリア内の観光事業者が協力運動して、犬連れに嬉しい、いろいろな取り組みをしています。特に自然を利活用した犬と一緒に楽しめるプログラムの充実ぶりは素晴らしいものでした。そこに至るまでのご苦労を含め、そのプロセスは今後の活動において非常に参考になりました。

また、私たちの活動と同じで、ワンコネット那須協議会も「犬の苦手な方への配慮」や「愛犬家のマナーやモラルなどの啓発活動」も重要課題としてしっかりと取り組んでいました。

今後は、地域連携も視野に入れ、魅力ある軽井沢のドッグツーリズムを確立発信していきたいと思えます。

事業委員会 / 西山 紀子

2019軽井沢写真コンテスト ~作品募集~



四季折々の美しい風景、または軽井沢を楽しむ人々の心温まる風景やイベントの様子

①風景部門 ②人々/イベント部門

※軽井沢町内で撮影した写真に限ります

※2020年3月に中軽井沢駅くっつけテラス 1Fにて作品展開催予定

<賞> グランプリ(各部門1点) 5万円+賞状、など全13点予定

<応募規定> *お一人各部門2点まで

*締切日: 2020年2月7日(金)

詳細は、軽井沢観光協会ホームページをご覧ください

<https://karuizawa-kankokyokai.jp/2541/>



広報委員会

第5回 軽井沢WEB検定に向けて

軽井沢観光協会は、2020年2月2日(日)、3日(月)に第5回軽井沢WEB検定を行います。軽井沢WEB検定を通して軽井沢を知り、学び、そして感じることで、今まで知らなかった軽井沢の魅力を見つけてください。軽井沢を学ぶ一歩を踏み出すと、新たな世界が広がります。軽井沢WEB検定で、軽井沢の魅力あふれる不思議の扉を開いてください。

また、3~1級合格者の方には毎年11月に行われる『検定合格者の集い』にもご参加いただけます。多くの方のチャレンジをお待ちしています。

組織強化委員会 / 高見 康昭





「軽井沢ハーフマラソン2019」出場者更新6118人!!

5月19日「軽井沢ハーフマラソン2019(第34回ロードレースin軽井沢)」が県内外からハーフの部5590人、ファミリーペアの部237組528人が出走。ゲストにプロランニングコーチの金哲彦さん、ゲストランナーに嶋原清子さん、招待選手に木下裕美子さんと小田切亜希さんをお迎えし、好天に恵まれ新緑の軽井沢を駆け抜けました。

事業委員会担当のフルーツデスクは例年、会場が中間地点の湯川ふるさと公園でしたが、今年はフィニッシュ会場でエントリーした方全員にフルーツを提供しようということになりました。

準備の段階からランナーの方がとても楽しみにしてくださり、「フルーツを楽しみに頑張って走って来るね!」などと声を掛けながらスタートしていききました。7000人分という用意する数の多さにまず驚き、間に合うかどうかなどの不安もありましたが、当日はたくさんの果物を協賛して下さった業者さん、理事や例年ボランティアで参加協力して下さる I S A K と軽井沢高校の生徒に助けられ、長時間待たせることもなく無事終了することが出来ました。

例年より時間も長くなり大変でしたが、ランナーの方々の喜ぶ顔を見て次回も頑張ろうという気持ちになりました。

事業委員会/大工原 亮子



第10回「グランfond 軽井沢」

今年も5月11日(土)・12日(日)に「グランfond軽井沢」が開催されました。

1日目はすっかり恒例となった、町内でグルメを楽しむ「ザ・グルメfond軽井沢」「ザ・タンデムfond軽井沢」。2日目は、浅間山麓を一周する「グランfond軽井沢2400」「グランfond軽井沢2000」の2つの本格山岳ロングライドに、新たに「エンジョイ軽井沢」が追加。姉妹大会の「グランfond婦恋」、アニメ・コミック・キャラクターファンのためのサイクルイベント「グランfondKOMORO」も同時開催され、計1600名を超える参加者が集まりました。



グランfond軽井沢事務局

第18回「ジエロ・デ・軽井沢」

5月25日～26日、ルグラン軽井沢ホテル&リゾートをメイン会場として開催した第18回ジエロ・デ・軽井沢。軽井沢を拠点に残雪の白馬連峰、緑豊かな安曇野、喧騒前の静かな別荘地、清々しい高原、浅間山周辺などバラエティ豊かな350キロのルートタイムラリー形式で駆け抜けました。参加者たちは初夏の軽井沢を存分に楽しんだ特別な2日間となりました。

GiRO di Karuizawa 実行委員会/細江 久美子



軽井沢観光協会創立70周年記念講演のお知らせ

当協会は、昭和24年(1949年)の創立より70周年を迎えます。(初代会長:星野嘉助)

- 日時:令和元年11月29日(金曜日) ●場所:軽井沢万平ホテル
 - 記念講演:「テクノロジーで観光を強化(地域、企業)する」(仮称) 講師 慶應義塾大学理工学部 栗原 聡 教授
- *多くの皆様のご参加お待ちしております* 【詳細は観光協会ホームページにてお知らせします】

G20関係閣僚会合が開催されました!

6月15日(土)・16日(日)、日本で初めてのG20サミットのうち、「持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」が、軽井沢プリンスホテルを会場に開催されました。

本会合では、海洋プラスチックごみ対策や、エネルギー・気候変動分野についての議論がなされ、最後にその内容をまとめた共同声明が採択されました。自然豊かな軽井沢町で、世界のエネルギーと環境の担当大臣らが一堂に会し、G20各国が一致したメッセージを全世界に向けて発信できたことは大変意義のあることです。さらに、会合のサイドイベントとして、軽井沢・プリンスショッピングプラザ敷地内で「G20インフォメーション展」が開催され、家族連れなど3日間で延べ3800人以上が訪れました。また、14日(金)には地元主催のエキスカッションや歓迎レセプションが開催され、G20各国の大臣らをもてなしました。

今回の会合は会議全体の参加者が約1000人と、2016年のG7交通大臣会合をはるかに超える、町の歴史上最大規模の国際会議となりました。来年6月には「国際小児脳腫瘍シンポジウム」が予定されており、日本有数のリゾート会議都市としてさらなる進化が期待されます。

軽井沢町役場 観光経済課G20担当/竹本 浩次



第32回国際アカデミー in 軽井沢開催の御礼



この度は、第32回国際アカデミーin軽井沢の開催に際しまして、多くの地域の皆様より多大なるご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。おかげをもちまして、地域に大きな国際化のインパクトを与えることができ大成功となりましたことをご報告いたします。

国際アカデミーとは、国際青年会議所(JCI)に加盟する125カ国のうち、約80カ国の翌年の会頭候補者を集め、約1週間リーダーシップ研修を行うプログラムであり、同時に開催地には、小学校訪問や地域住民との交流、地域の文化を発信できる機会など多くの地域益がある事業です。子供たちがたくさんの海外の方々と嬉々として交流する姿などは、本当にこの事業を誘致して良かったと胸を打つ光景でした。

これからも軽井沢青年会議所は、地域に根付いたNGO団体として活動をして参ります。引き続きのご理解ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人軽井沢青年会議所/理事長 庄司 晃

軽井沢ショー祭 2019

8月1日、軽井沢ショー祭2019がショー記念礼拝堂にて開催されました。恒例となりました軽井沢ショー祭は、今年で第20回目を迎えました。

日本聖公会中部教区の瀧澤主教からのお言葉、カナダ大使からのメッセージを披露の後、ショー師の胸像に全員で献花をいたしました。

式典に続き、加賀乙彦さんと青木裕子さんの対談、フルート奏者の遠藤尚子さんの演奏で参加者は楽しい時間を過ごしました。加賀乙彦さんは、医師で小説家、そして軽井沢高原文庫の館長、青木裕子さんは、NHKアナウンサーを退職後、軽井沢朗読館と軽井沢町立図書館の館長を務めていらっしゃいます。

避暑地軽井沢を見いだした宣教師アレクサンダー・クロフト・ショー、並びに先人たちを称え感謝を未来につなげる町民祭、雨模様の天候にもかかわらず列席して下さった皆様、誠にありがとうございます。

軽井沢ショー祭実行委員会/委員長 鈴木 健夫



軽井沢観光協会 職員紹介

工藤朝美(事務局長)

このたび、事務局長を拝命いたしました工藤朝美と申します。

昨今は、国全体で観光事業に取り組んでいる中で、インバウンドのお客様も増えてまいりました。協会の皆様のご意見を伺いながら努力してまいりたいと思います。皆様が事務局に来られ会話ができれば幸いです。今後ともよろしく願いいたします。

中島恵美(観光案内所)

東京から約30年通い続け、念願かない軽井沢に定住することができました。

みずみずしい新緑の春、爽やかな夏、鮮やかな紅葉の秋、そして静寂に包まれた銀世界の冬。

訪れるお客様に軽井沢の素晴らしさを少しでも感じて頂けるように、4月から駅の案内所で奮闘しています。

日本語と英語でご案内することができますので、お声がけ下さると嬉しいです。

掛川礼央(観光案内所)

日々、観光案内所で働くにつれて案内自体は慣れていくものの、まだまだ知らない軽井沢の一面をお客様から学ばせて頂くことが多いです。過ごしやすい気候で有名な軽井沢ですが、働いている人も素晴らしい。

そして、軽井沢に来て良かったと思って頂けるよう案内に努めさせていただきます。

ワーケーション・スタートアップ・フォーラム 参加レポート

昨今働き方改革の脈絡の中で、テレワーク、ワーケーションが脚光を浴びてきています。長野県では、「人生100年時代・豊かなライフスタイルの実現は長野県から」というコンセプトで、ライフスタイルの多様性に伴い変化するワークスタイルに対応する施策をしています。その実現の為、昨年より「信州リゾートテレワーク」は軽井沢を筆頭に7地区をモデル地域に指定し、強力に推進しています。

そのような中、去る7月18日東京でワーケーションの全国展開を目指すフォーラムが、政府・全国の自治体・企業など集まり盛大に開催されました。ワーケーションに積極的な和歌山県と長野県の両知事による署名式も行われ、新しいワークスタイルへの関心・機運の高まりを強く感じるフォーラムとなりました。



軽井沢リゾートテレワーク協会／副会長 鈴木 幹一

軽井沢観光協会 賛助会員

DELiCiA 軽井沢店
デリシア

DELiCiA 軽井沢店は「安全・安心」「地元産」「楽しいお買物」にこだわり、お客様の期待に応え続けられるお店を目指してまいります。皆様のご来店を従業員一同心よりお待ちしております。

北佐久郡軽井沢町軽井沢野原1323-1002(国道18号線沿い・JR軽井沢駅近く)
営業時間9:00~23:00(年中無休) TEL.0267-42-0505

夜の11時まで営業中

軽井沢駅前 軽井沢駅
北野新幹線・しなの鉄道